

自分で考え自分で決められる子に

梅雨が明け、夏本番の暑さがやってきました。猛暑日が続いていますが、熱中症に配慮しながら、夏ならではの水あそびを満喫できるように、環境を工夫してまいります。涼しい部屋で過ごすだけでなく、汗をかくことも、子どもが体温調節をうまくできるようになるためには必要なことです。活動の前後、途中にも水分補給をし、子どもたち一人ひとりの健康観察をしながら元気に過ごせるようにしていきたいと思ひます。家庭でも、元気に過ごすにはどうしたらよいか、お子さんと話をしたり、「朝は7時には、起きようね」など、自分のことは自分で考え、決めるようにし、子どもたちが意識して行動できるようにしていきましょう。

年長児は、9月6・7日の2日間、広島市野外活動センターでのお泊り保育に行きます。小学校入学を前にして、「自分のことは自分でできるか」「友だちと協力しながら考え、判断して行動する力」が身についているかなどを確認することが目標の一つになります。家族と離れ、初めて行く場所で様々な体験をし、最後までやり遂げた経験は、子どもたちに「やればできる」という自信を持たせ、より成長してくれると思ひます。家族と離れ、一泊することを不安に思ひのお子さんがあるかもしれませんが、お泊り保育のビデオを見たり、準備などを友だちと進めていく中で、期待感をもって参加できるようにしていきたいと思ひます。家庭でもお子さんと一緒に荷物の準備をしたり、自分のことは自分でしようとする姿が見られたら誉めたり、お泊り保育が楽しみになるように対話をしてみてください。

先月、園バスに乗って坂みみょう保育園に行き、グループごとにクイズの答えを考えたり、園庭で遊んだり、交流を楽しみました。後日、砂場で遊んでいた年長児が、ざるを砂に押し当てて、回しながらサラ粉作りをしているのを見かけました。ざるに、砂を入れてふるうのではないそのやり方に「おもしろいね、そうやってもサラ粉ができるね」と声をかけると、「坂みみょうのお友だちがやりよったんよ」と、教えてくれました。少しの時間、一緒に過ごただけですが、刺激を受け、真似てやってみることで、子どものあそびのパターンが増え、あそびがより広がっていくのだと思ひました。今月も2回目、3回目と交流会があります。今度は、坂みみょう保育園の年長児が小屋浦にやってきます。いろいろな活動を通して、お互いが知り合い、心を通わせ1か月後のお泊り保育では、協力しながら楽しい経験を共有できる仲間になっていくことと思ひます。

先日の夏まつりには、厳しい暑さにもかかわらず、たくさんの方に参加していただき、ありがとうございました。子どもたちのわくわくする気持ちにつられ、笑顔いっぱいの夏まつりになりました。人が集い、同じ場所で楽しさを共有できたことをうれしく思ひ、子どもたちは、群れの中で育っていくことが大切なのだと思ひました。

園長

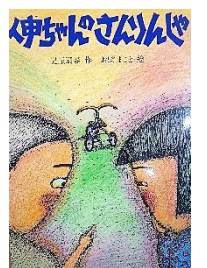
子どもの熱中症対策

～よく食べて よく寝る～

子どもは体温調節がうまくできないため、暑いと感じて自分で調整することができません。喉の渴きを大人に伝えることが難しかったり、あそびに夢中になってしまうことが多いため、大人と比べて熱中症のリスクが高いのです。熱中症対策としては「こまめな水分補給と塩分補給を心がける」と「毎日の食事を充実」させることが「体力向上」につながり熱中症対策になります。また、「十分な睡眠」も熱中症予防対策として重要です。猛暑が予想される日の前日には、できるだけ早く眠りにつき、睡眠時間を確保するようにしましょう。

平和の日によせて

今年は、79回目の平和を祈念する日、8月6日を迎えるにあたり、日常生活の中で「いのちについて考える」機会を持ちたいと考えています。野菜を育てたり、生き物の世話をする中にも「いのち」を感じる場面があります。小さな生き物や野菜にも「生きているんだね、自分たちと同じなんだね」と命の大切さを感じ、感謝や思いやりの気持ちが伝わるように心に響く語りかけをしていきたいと思ひます。平和に関連する絵本を紹介し、一階エントランスに置いておきますので親子で読んでみてくださいね



0歳児、1歳児も色水をじいーと見たり色水の入った容器に手を伸ばします

いろいろな道具を試しながら考えながら使って遊ぶよ

水が出てくる・・・何に入れようかな

テントの屋根のところにホースを取り付けて水を出してみると・・・

水たまりを見つけると・・・パシャパシャ走ったり車を走らせたり・・・いろいろなあそび見つけたよ

わあーっ 雨ふってきた!? 冷たい、気持ちいい

3歳児は、色水を容器に入れたり、混ぜたりすることに夢中になっていました。そこへ近づいていき色水に興味津々の1歳児・・・しばらく色水を見ていましたがその後、色水の入った重たいジャグを抱えて「ばしゃ〜ん」と色水をひっくり返していました。それがたのしいあそびになったのです。同じあそびでも年齢によって「たのしい」ポイントが違っているのです。